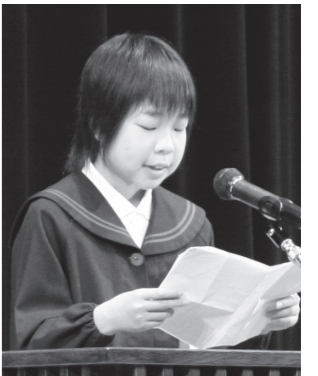


# 市制施行5周年記念作文

市では、市制施行5周年を記念して「こんなまちになってほしい」というテーマで作文を募集しました。そして、その中から小学校と中学校の部でそれぞれ最優秀賞を選定し、記念式典で発表しました。そのすばらしい作品を紙面でご紹介します(学年は応募当時)。



## 小学生の部 最優秀賞

### 「私の好きな自然豊かな長門市」

向陽小学校5年 中井詩歩さん

「うわあ、きれいだ。」  
と思わず声をあげた。

夏の夜、私は、おじいちゃんといっしょによく深川川の音信橋にホタルを見に行く。

音信橋から、川岸のやぶを見ると、ホタルたちの光が消えたりついたりして、それがまるで、イルミネーションを見ているみたいなのだ。私は、その風景を見るたびに作られたイルミネーションもいろいろけれど、ホタルが作った自然のイルミネーションも、好きだなと思う。

私が四年生の時、おじいちゃん、おばあちゃん、おじいちゃんといっしょにホタルを見に行った時のことだ。私の近くにホタルがとんで来て、そのホタルを手でかこんでつかまえた。するとおじいちゃんが、

「ホタルは、短い命なんだよ。」と、教えてくれた。私は、それを聞いて、手のひらを広げ、ホタルをながしてやった。そして、そのホタルがどこまで行くのか、ホタルの光の点滅つを、分からなくなるまでじっと見つめた。

私が、長門市で一番好きなところは、このホタルが毎年見られるほど、豊かな自然に囲まれているところだ。特に私の住む向陽校区は、ホタルが多く、ホタル見物におとずれる観光客も多い。

私が、ホタルを見に行ったとき、必ずすることがある。それは、ホタルの数を数えることだ。私は、なぜかホタルを見に行くとき、数を数えてしまう。

「二、二、三、四、・・・、三十、三十一、三十二、あーわからなくなっちゃった。」と、いつもこうなり、おじいちゃんに笑われる。でも、その夏、おじいちゃんが、

「川の近くに木や緑がへって、ホタルが去年より少なくなっている。」  
と言った時、どきつとした。でも私は、数をわすれてはいけないので、

「ふーんそーなんだ。」  
としか言えなかった。でも、私は、おじいちゃんが言った最後の言葉で、「ふーんそーなんだ。」ではすまされなと思った。その言葉は、「このままだったら、ホタルが少なくなってしまうよ。」  
だった。私は、とてもびっく

りした。私の大好きなホタルがいなくなるかもしれないんだ、と思いショックだった。私は「そんなのはいやだ。」と思った。そして、ためいきをついた。

その日の帰り道、私はもつと川の近くに木や緑を増やして、ホタルを増やしたいと思った。そして、川の近くだけじゃなく、いろんな所にも木や緑を増やして、もつと自然豊かな長門市になったらいいと思った。

私は、ホタルのイルミネーションを来年も再来年も、ずっと残したいと思う。私が大人になったときも、自然のイルミネーションが残っている長門市であってほしいと思う。



## 中学生の部 最優秀賞

### 「私の古里」

菱海中学校1年 山崎実華さん

「おはよう。」と、朝のあいさが飛び交う、温かい長門市が、今日も目覚めました。

朝、学校に行く途中、私は自信をもってあいさつをすることが出来ます。それは、絶対にさらに元気なあいさつが返ってくる、分かっているからです。花屋のおばさん、車に荷物をつんでいるおにいさん、散歩中のおじいさん、そこには、みんなみんな、忙しい朝を楽しんでいる笑顔があります。だから私も、いつの間にか、ほほの筋肉がゆるんでしまうのです。校舎に入ると、減少した体力を回復させてくれるような、やわらかな目ざしと、ゆれる木々が、私に笑いかけます。そんな美しい自然も、私が長門市にいらることができてよかったです、思える

理由の一つです。また、秋の田んぼの美しさは、言葉に表せないものがあると思います。その中を、すずしい風になつて通ることが、私のお気に入りです。そして、その美しい穂から生まれたお米や、取れたての新鮮な魚、汗水流して育てられた輝く野菜、私はすべて大好きです。地元の食材の新鮮さやおいしさが、身にしみてわかる瞬間は、やすらぎの時である、と言いかえることが、できるほどです。

私が幼少の頃、楽しい遊具のそろう「公園」というものはありませんでした。でも、そのおかげで、いろいろな場所、たくさん遊びがうまれました。山や川の中にも入っていました。私は、未来の長門市

でも、子供が無邪気に遊んでいる姿が見たいです。子供だけでなく、大人も笑顔の絶えない長門市でありたいです。だから私は、この大切な長門市を守っていききたいと思えます。

他県や、他の市から見れば、この長門市は田舎に見えるのだと思います。でも、田舎だからこそ、私は長門市が大好きなのです。都会にはない、夜の黒い幕をつれ、笑うように踊る星達は、いつだって、私をくぎづけにしてしまうのです。「おつかれ様、明日も頑張ってください。耳をすまして、私達の声を聞いて。」と、ささやいてくれるように。

教室の窓から外をのぞけば、豊かな自然が、きらきらとまぶしい光と共に入ってきます。

家庭でも、学校でも、調理されたおいしい魚や野菜が出てきます。分からないことは、辞書も逃げ出してしまったり、知識と知恵のつまったお年寄りの方に尋ねれば、解決してしまいます。私はこんなに恵まれた長門市で育つことができて、とても幸せに思います。見たせば、輝くものは、どこにでもあるのです。

こんなにうれしく、素晴らしい環境は、探してもなかなか見つからないのではないかと、思います。だから、私は今の、この自然たっぷりの長門市を、存続してほしいです。そして、温かい笑顔とあいさつで始まる、最高の朝を、遠い遠い、「未来」の長門市でも、どうか、味わうことができま